



# 報 會 曲 千

第41號

信州大学繊維学部  
編集兼 町 田 博  
発行人 信州大学繊維学部  
発行所 信州大学  
社 法 人 千 山 会

昭和25年9月18日印刷  
昭和25年9月18日発行

〔非賣品〕

上 田 市 原 町  
印刷人 中 沢 正  
上 田 市 原 町  
印刷所 中沢印刷株式会社

## 日本學術會議の近狀

蒲 生 俊 興

日本學術會議が出席してもはや二カ年に垂んとして居ります。「學術會議はその間に何をしたか」と時折新聞や雑誌「科学」等で叱責を受けることもありますが、何分にも曠古の大戦争の後、産業も教育も全く疲弊し切つた後の事でしたから、戦時中に三十年も遅れたと云われている我國の科学水準を一年二年で目に見えぬ程度に進展させることは到底不可能なことに属します。學術會議は人文科学(三部に分れる)と自然科学(四部分れる)の凡ゆる面から我國の科学の進歩上隘路と思われ諸般の点を検討し、十四の常置委員、十四、五の臨時委員会を組織して、科学の進歩上緊急採らねばならぬ施策に就いて政府に対して、約四十五回に亘つて勧告や申入れを行い、又政府からの諮問に対して約三十回の答申を行つて居ります。

勿論學術會議は実行機関ではありませんから、政府と會議との中間には、所謂スタック(S.T.A.C.)科学技術行政協議会というものがあつて、科学技術上の重要問題を実行に移す機関は備わつて居りますが、他の行政事務の繁多に禍いして、各省に対する強力な実行力に乏しいと言われて居ります。

従つて最近政府には科学技術廳を設置しては如何という案も出で、之が附屬機關として更に中央科学技術調査所の必要を叫ばれて参つた次第です。

海外の諸学会との連絡ということも科学の進展上重要な事柄でありますから、本邦に於ける各学会との連絡の上で研究連絡委員会が二十六も成立し、万国の諸学会には順次代表科学者を送り、又は文献の交換を行つて居る次第であります。

更に學術に関する研究発表の助成ということも科学進歩の上から極めて重要であります。

ので學術情報所(Information Centre)の計画も樹て、文部省と提携して印刷刊行費等の助成にも乗出している訳です。

或は研究成果の実用化促進の必要から工業技術開発公庫案を提出し、又基礎的研究と之が実用化研究の連絡組織も奨励しようとして居ります。又天災地変に対する防災委員会を組織して防災に関する総合調整機關の設置に就いて政府に勧告しようとして居ります。

其の他科学知識の普及対策とか、發明、特許の保護尊重、科学研究者の職務障害に対する國家保障とか、研究公務員の特殊取扱ひなどの問題を検討して政府に申入れを行つた訳であります。

尙學術研究の奨励に対して最大の要因と考えられる科学研究費等に就いては文部省及び各学会に依頼して、之が適良なる配分を実行

## 日本學術會議会員改選に關して

### 同窓の有権者各位に告ぐ

日本學術會議は過去二カ年間多種多様な職後日本の学会の指導権をとり、偉大な貢献をせられたつあるが、本年十二月には再び會議会員の改選が行われることに決定した。

現て前回は第六部(農學)の至系關係の學者は御承知の通り全國区として、平塚、蒲生、横山、木暮、山柳の五氏と中部地区として小針氏を加へ計六氏が推薦され立候補されたが幸に六博士共譽をそるえ併も圧倒的得票で當選の榮を克ちえられたことは誠に欣快にたえない。母校も地理的その他の悪條件下にも拘らず幸に蒲生俊興博士の選出を見たことは甚だ心強い極みであるが、予期にも増して甚

して居り、其の他産業再建に必要な輸入促進を検討し、着々実現致して居る有様であります。

尙最後に我々の所屬して居る第六部(農學)關係に於ても、農學計画、農學連絡の各委員があつて、農學部門内の諸科学の研究に對する最近の動向等を調査し報告して居り、追つて學術會議に於ても農學集報の如き機關雜誌の刊行も速からぬこと考へて居ります。

以上の如く二一〇名の夫々各専門の學者を動員し、凡ゆる角度から科学の奨励上必要と思われる諸点を検討して、之を施策に移して行くより献策するのが學術會議の任務であります。二年の短期間では甚だ無理だと思ひますが、その成果が目に見えぬには創立後僅か一、二年の短期間では甚だ無理だと思ひます。要は科学の進歩というものは沢山の係数を擁する指数曲線だと考へねばなりません。一種の成長曲線の様なものと見ると、自分の開字狀曲線の底部を動いている時代だと思つて間違ひはなく、従つて数年後に於ける我が國の科学の発展を睨みて期待して得るものと確信致して居ります。

(七月二十九日)

糸学会はもとより日本学会の爲に幾多の功績をのこされつあることは誠に感謝にたえない。

次に選挙有権者の資格については、今回は研究業績の有無に重点がおかれて居るが、既に七月二十日迄に各位が提出された登録カードにより、選挙管理委員会が審査認定され、有権者となりうるものであるが、君々は専門学校出身者としての権利者の義務として学会の爲に適當な人を學術會議会員として送り出さねばならないと思ふ。

そこで今回も至系關係では朝野共に現在の會員六氏の出馬、再選を希望している向きが

臣制であるし、母校としても日本畜産学会の推薦を受けた。徳兼備、練達の上、消生教授の立候補を願わし、栄冠を克得しめたいと、今から奮闘している所である。千曲会員諸子

よ、選挙権の有無に拘らず前回にもまして、今日から奮闘して止まない次第である。

### 圖書寄贈御依頼について

大学昇格に伴い本学部としては圖書冊数が不足であるとの評を大学設置委員より受け、その後着々五万冊を目標に努力を致して居る次第であります。何分にも予算が意の如くなりませんので、困窮致して居る様な訳であります。従いまして前号に同窓各位から圖書(何でも可であります)の寄贈を仰ぐ様に御依頼申上げました。幸い多数の御寄贈を賜りまして、母校発展の爲に益する処が大であります。本会報を通じて厚く御礼申上げます。然し未だ五万冊には程遠い現状でありますから、どうぞ皆様の蔵書の一部御寄贈によつて本学部誠に欣慶にたえない。同先生は若手縣出身で

#### 信大長高橋博士を迎う

開学以来一年有余に亘つて学長空席のまま、運営していた信州大学も、本年六月元東の北大学理部部長、名譽教授理部博士高橋純一先生を学長として迎へることになったことは、誠に欣慶にたえない。同先生は若手縣出身で

## 信州大学の組織

学長	高橋純一	学部長	竹内良三郎
大学本部	事務局 局長 横田 実	所在地	松本市旭町
文理学部	人文科学科 社会科学科	所在地	松本市旭町
教育学部	自然科学科 社会科学科 小学教員養成科 中学教員養成科	所在地	長野市西長野町
松本分校	本分教室	(主事)	加藤 清一
吉田分教室	医学部	佐藤 武雄	松本市旭町
医学部	附屬病理科	松本市旭町	松本市旭町
工学部	附屬看護学校	結城 朝器	長野市若里
工学部	工機化学科 電気工学科 通信工学科 土木工学科	鈴木 秀雄	下伊那郡南箕輪村
農学部	農学科 林学科 農林学	伊藤 武男	上伊那郡手良村
附屬演習林	附屬農場	同右	上田市常入
附屬演習林	製糸学科 紡績学科 繊維化学科	同右	同右
附屬農場	学外綜合農場(小縣郡和村)	同右	同右

東京大地理学部地質学を出られ石油等の天然資源に対する權威者であるとのこと、人品風格共にそなわり、效に有力なる名学長を戴いた我が信州大学も、慙々鬼に金棒という所であり、誠に願わしい限りである。

### 縣文教委員長等本学部施設視察の爲めに來学

信州大学設置に伴い長野縣としても縣費支出を以つて大学の施設拡充の援助をしたいとの意向のもとに信州大学の各学部の施設を神谷文教委員長以下数名が視察した。本学部は七月二十六日神谷文教委員長以下が來学し施設の不備の点について視察した。然し現在迄は縣の補助の大部分は信州大学の他学部に割当てられ当学部は「内容が一番充実している」との名目のもとに何時でも不利の状態におかれて来たので今回は是非其の様な事のない様に、よく不備の点について説明し、極力援助を願つた次第である。

### 新任退職者

田口常平博士 五月三十一日附を以つて愛媛縣立松山農科大学教授より本学部教授に発令された。田口教授は本学部前身の上田畜專養蚕科第一七回卒業にして後九州大学農学部、同大学院を経て本学部にては裁桑

## 日本学術会議会員の改選

### 日本学術会議会員選挙準備委員

昭和二十四年一月二十日を以て東京都上野公園内日本学士院に於て、呱呱の声をあげた日本学術会議は、はやくも滿二十九年の初任期を通過することとなり、本年十二月十日を期して同会員の第二回選挙が行われることになりました。従前本学部清生教授の所屬して居る日本学術会議の部局は、第六部即ち農学關係であり

学を担当する。今後の御活躍を期待する次第である。三浦乾太郎教授 五月三十一日附を以つて米沢工業専門學校紡績科教授より信州大学上田繊維専門學校教授となり着任された。同教授は前任校、卒業で同校教授を勤め、今回本校に轉任された。今後大いに同教授の御活躍を期待する次第である。

中島清氏文部事務官に任官 厚生補導課に勤務の中島清氏は三月卅一日附を以て文部事務官に昇格し引続き同課にて厚生補導の事務を行うことになった。小松忠一 郎教授退官 家事の都合により三月三十一日附退官された。御郷里は上伊那郡辰野町三七九〇である。在任中千曲会理事としても大いに御盡力願つた。吉田綱雄教授轉任 三月三十一日附退官された。御郷里の近くの太府立浪速大学農学部教授に転任された。塩入副手退職 五月十五日附母校副手を退職し小縣養蚕学高等學校教諭として赴任された。

笹井利之副手退職 七月三十一日附で母校繊維化学科染色学研究室の笹井副手は退職し大阪の染料会社に勤務されることになった。樋口昭副手退職 母校繊維化学科合成繊維研究室の樋口副手は三月十五日附で退職し日本専賣公社上田工場研究室に轉じた。



齒科診療医を設ける
当学部医員として齒科医師前見治之助氏が三月二日付で任命された。同医師は市内唐人郵便局隣の開業医である。

圖書分館長決る

大学の猪尾に伴い機構改革によつて従來の圖書課は大学本部の附屬圖書館の分館となりその分館長が学部長、圖書委員で選考されていたが八木教授が選任され六月二十六日付発令された。

荻原教授農學博士の學位を授けらる

荻原清治教授は多年の研究成果「繭糸の構成に關する研究」なる論文を以て東京大学農學部に提出して同教授會を通過し四月十二日(文部省認可)附を以て農學博士の稱号を授けられた。本校卒業生にして學位を獲得された方は荻原教授で一人である。

本學教育の内地留學

今年度の文部省内地留學生として本學部から纖維化學科勤務の隅田隆太郎教授が京都大学工学部隅田教授のもとに十月の予定で七月出發された。

教官の内地留學制度は戰時中一時中止されたが、一昨年からは復活し、已に二三年度は纖維化學科の町田助教授が東京大学農學部農學科淺見研究室へ六カ月間、及び畜産科の隅田教授が京都大学農學部農學科西山研究室へ三カ月間、二四年度は製糸科の白井助教授が京都大学工学部化學機械科白井研究室に五カ月間の内地留學をしてゐる。

信州大学纖維學部上田總研究會第一回學術研究發表會開催

信州大学纖維學部上田總研究會が設立され第一回の學術研究發表會を六月二十五日午前九時より本學部會議室に於て開催した

処三十題目以上の研究發表が行われ極めて有意義であつた。第二回の研究發表會は秋に開催の予定である

日本昆虫學會、日本蚕糸學會中部支部研究發表會本學部に於て開催

日本昆虫學會 一〇月一四日~一五日、日本蚕糸學會中部支部研究發表會 一〇月中旬、同窓各位の多數御來會を御待ち致します。

科學教育研究室研究員入室

本年も前年に引続き本學が科學教育研究室に文部省より指定され七月一日公表の如く科學教育研究員が入室し、目下各教官の下に於て研究中である。

Table with columns: 研究學科目, 指導教官, 入室者名, 入室者数, 入室者数. Rows include 微生物學, 細胞遺傳學, 蠶糸解剖生理學, etc.

文部省科學研究費受配者本學部で多數を占む

文部省が吾が國の科學文化の振興發展の爲全國の研究機關、學校等廣く研究題目を提出させ日本學術會議その他の審査機關を経て採択された研究題目に就いて毎年相應の研究費を交付しているが、本年度當學部の教官で交付を受けた者題目及金額は次の通りで、信州大学で七五名中當學部二七名の多數を占めた

- 纖維材料ミセル構造の研究 西沢 一俊 一万五千
○纖維材料ミセル構造の研究 木内 修一 二万
○アングラ兔毛の性能及び可紡性素質の物理的性質について 小林 尚一 一万
○固体内部における拡散現象の研究 木内 修一 三万五千
○ケラチン分子構造の變態に關する研究 木内 修一 一万
○織物の性能として現れる纖維及び糸の性能について 吉里 孝一 一万七千
○纖維素誘導体皮膚の延伸に關する研究 隅田隆太郎 一万五千
○羊毛纖維の等電点に於ける洗滌並びに染色に關する研究 金田 源作 二万
○桑樹病害防除の基礎研究 松尾 卓見 二万
○胡桃(Tegulus regia, L.)の結実に關する研究 町田 博 二万
○アイゼニンの化學的構造に對するチケトピペラジンの検討 大平 敏彦 五万
○アングラ兔毛成長に關する遺傳學的並に内分泌學的的研究 川端 吉成 一万五千
○セリンの研究 伊藤 武男 三万
○單性生殖及びその他のある方法による蚕の性比の調節及びその細胞遺傳學的研究 佐藤春太郎 三万
○昆虫体脂肪細胞に於けるビタミンCの合成に關する細胞學的研究 蒲生 俊興 四万

繅糸機械改善の研究

- 土壤中の微量元素の桑樹の發育並に桑葉の質に及ぼす影響 志波 清時 二万五千
○繅糸の物理的駆除法の研究 八木 誠政 二万
○家蚕硬化病菌の生産する抗菌性物質に關する研究 古平 福紀 二万
○蚕の健全と連鎖球菌との關係 齋藤 実 二万
○蚕糸の化學的組成研究 奥 正巳 三万五千
○家蚕の吐糸機構に關する研究 荻原 清治 二万五千
○蚕卵胚子の重量成長並びに生化學的性狀に關する研究 山口定次郎 二万五千
○繅糸の光の吸収及び反射機構について 窪田 潤 二万五千
○クワ科の細胞學的研究並びに桑樹の品種改良 關 博夫 二万
○家蚕生殖巢の發育に及ぼすマンガン及び亜鉛の影響に關する研究 竹田 寛 二万

道德復興運動(M.R.A.)の講演會開催

終戦と共に國民道義の基準を失つて、たゞ本能の赴くまゝに委したよきな最近の世相は誠に痛嘆にたえない。恰かも國際平和運動としてのM.R.A.運動が十五年振りで吾國にも再び燃え上りその中央からアメリカ代表としてR・トイツチネル氏とR・エントウイツスル氏とを迎え、二月十八日午後一時から當學部講堂に於て、相馬雪香女史の通訳で開會すられ、在日の同志(チーム)としてR・ハーカー氏、三井高維氏及同高順氏と高原義男氏等々の力ある御話を拜承し、當學部職員及學生中多數の共鳴者を出したことは誠に同慶にたえない。

因にM.R.A.運動とは四絶対即ち、絶対

正直、絶対無私、絶対純潔、絶対愛の標準に照し、自己反省をなし、既往の罪科を賠償し神と人との前に正義なる人間として再出発することである。自分が改変すれば一家が変り一家が変れば社会が変り、社会が変るによつて世界國家の眞の平和が持ち來されることになるのである。

憲法によつて軍備と戦争を放棄した日本として絶対平和こそ我々の念願する所であらねばならぬ。國運の力もさること乍ら、M・R・Aの如き精神革命による平和運動こそ現代の喫緊事ではありませぬか。

六月四日はM・R・A運動の創始者たるブツクマン博士の誕生日に当るので、前回のK・トイツネル氏やR・ハーカール氏等を迎へ本学部講堂に於て第二回のM・R・A大会を開いた。來本要約三百余名に達し特に青年男女學生の間に熱烈なる共鳴者が輩出されたことは頼もしい次第である。

### 母校に職業斡旋部

從來在學生、卒業生の就職については、千曲會館内で事務をつていましたが、今回職業安定法に基づき學校本來の仕事として信州大學職業部職業斡旋部と命名され、新本館厚生補導係の中へ職場を設け、厚生補導係と別れて職業斡旋部なる看板が下りました。聞き馴れない名稱ですが前記の安定法により全國的の名稱であるから御了承願います。從來から就職については同窓諸兄に多大の御世話になつて居りますが倍旧の御協力を御願ひ致します。以前の如く臨の仕事をなく就職難の折柄學校本來の仕事として大きくクローズアップされた次第です。御了承の上一層の御支援を御願ひ申上げます。尚厚生補導係なる名稱を聞き馴れない名稱ですが、これ亦大學規格に伴つて學内機構が改まり從來の教務課、學生課が廢されこれに代つてこれらの仕事を厚生補導係が受持つて居ります。序に申添えます。

## 國家公務員採用試験について

入學院では國家公務員法に基いて國家公務員の採用試験を毎年行ふことになりました。試験は從來のものとは異なり何処迄も成績主義によつて居りました。受驗資格も最低ベースを定めそれ以上の者ならば希望する立場におかぬが出來、合格しても絶えず競争的立場におかぬことになつて居ります。今行われる試験は明年採用の5、6級職の國家公務員採用試験として合格者は國家公務員候補者名簿へ登録され各官廳の要求に應じ成績順に提示され、その中から採用されることとなつて居ります。本試験合格の有効期間は別記名簿へ登録されてから一カ年でして受驗職種、並に受驗資格を抜萃すれば左の通りです(詳細は七月十二日附第七〇四九号官報にあり)此の告示は諸所で見られて居りますよが會員の認識を廣める爲に御紹介しておきます。

### 一、職種(五、六級職共通)

(1) 行政職 行政事務を主たる職務内容とするもので履修した学科の種類は何れでもさしつかえない。

(2) 専門職 左の専門科について知識、經驗技術等を特に主たる職務内容とするもの  
法律、経済、心理、教理、統計、物理、電氣、通信、機械、造船、工木、建築、冶金、鉱山、應用化学、農學、農業経済、農藝化学、農薬工学、畜産、蚕糸、林学、水産

### 二、受驗資格

5級職 旧高等学校令または旧専門学校令による高専校を卒業した者  
および昭和二十六年三月三十一日までに卒業する見込の者  
尚新旧大学卒業者は勿論資格があります

し中学校卒業者も卒業後一定年数を経れば資格があることとなります。  
6級職 5級職の受驗に必要な學歷を有しかつその學歷または経歴を取得した日から昭和二十六年三月三十一日までの期間から年に滿つる者(男女の別を問はず、年齢は在學生以外は二十八才迄の者)

### 纖維農業科及養蠶科卒業者の御参考

### 農業普及専門技術員資格審査規程

今長野縣に於ては農業普及専門技術員の資格について審査規程を設け今後毎年審査を行うこととなつたが他府縣に於ても同様のことを行なわれ免許資格も各府縣共通でありますので御参考迄に右規程の一部をここに掲げますので將來の自己開拓に資せられたい。

第一條 農業改良助長法に基く農業普及事業に従事する専門技術員の資格審査(以下審査という)はこの規程の定めるところによつて行う。

第二條 専門技術員の審査を受けることのできる者は次の各号の一に該当する者とする。  
但し外國の學校で内地の學校における課程と同等以上の課程を修めた者は、内地のこれに相当する學校卒業者とみなし、外國において試験研究、教育又は普及事業に従事した年数は内地のそれに相当する事業に従事した年数とみなす。

一、略

二、旧制専門學校又はこれに準ずる教育機関において、農業又は家政に關する課程を修了した者で卒業後六年以上國公共團休若しくは法人の農業若しくは家政に關

する試験研究教育機関において試験研究若しくは教育に従事した者又は國公共團休若しくは法人の組織において農業若しくは家政に關する実務又は普及事業に従事した者

第三條 審査は毎年一回行う。但し必要あると認めるときはその回数を変更することが出来る。

第四條 審査の実施期日、場所、審査出願書の受付期間その他審査施行上必要な事項は審査実施期日の三月前までに告示する。但し必要あると認めるときはその告示期日を短縮することができる。

第五條 知事は別に定める北信地区(長野、新潟、富山、福井の五縣)専門技術員審査委員會(以下委員會といふ)審査を委任して行う。

第六條 知事は委員會の選定した審査課題を審査課題提出締切期日一月前に審査出願者に通知する。

第七條 審査は次の項目に分けて行う。

- 一、病害虫
- 二、土壤肥料
- 三、農産加工
- 四、土壌肥料
- 五、農業衛生
- 六、農産土木
- 七、麦及び雜穀
- 八、家畜衛生
- 九、蔬菜及びいも類
- 一〇、果樹
- 一一、畜産
- 一二、飼料及び糞肥作物
- 一三、生活改善
- 一四、工藝作物
- 一五、農機具及畜力利用
- 一六、當農林
- 一七、農産加工
- 一八、審査は過去の業績報告書及び審査課題報告書による書類及び口答に基いて行う。
- 一九、審査を受けようとする者は様式一による審査出願書三部に次の書類を添えて知事の指定する日までに提出しなければならぬ。但し現に長野縣技術員は六・七を省略する。



### ● 試薬純正化学薬品 ●

化学工業薬品一般

理化学器・硝子器具・度量衡器・計量器

## 株式会社 横澤化学上田支店

上田支店 上田市海野町四七四六電話(上田) 9933  
 本社 東京都千代田区神田多町一ノ五電話神田(25) 02178  
 研究所 東京都千代田区丸ノ内三ノ一電話丸ノ内(23) 2978  
 札幌支店 北海道札幌市北十條四町ノ三 190

- 一、履歴書 (様式二) 三部
  - 二、過去の業績報告書 (様式三) 三部
  - 三、勤務証明書 (様式四) 三部 (内二部は写でよい)
  - 四、最終学校の卒業成績証明書 一部
  - 五、保健所(縣立)の健康診断書 二部 (内一部は写でよい)
  - 六、戸籍謄本 一部
  - 七、身元証明書
- 第十條 知事は審査旅行後一月以内に審査合格者氏名を告示し、様式五による合格証明書を交付する。

第十一條 専門技術員としての資格は審査合格した者であつてその合格した専門項目については各都府縣に共通する。

第十二條 合格証明書を亡失又は毀損したときは知事に申請しその再交付を受けることができる。但し亡失の場合はその事由を証明する書類を毀損の場合はその合格証明書を添えなければならぬ。

第十三條 知事は提出書類に虚偽の記載があつたときは委員会の審査を経てその審査合格を取消し又は専門技術員として不適当と認めらるる顯著な事由を生じたときはその合格を取消し合格証明書の返還を命ずることができる。

### 本会も海外渡航技術者全國連盟へ加入す

日本人技術者が海外で働く機会を得ることは將來に於ける日本人移民の再開と日本商品の販路の形成擴張に好影響があるばかりでなく技術者の良心的活動が渡航地の産業開發又は文化に最も直接に貢獻し得て、日本人の眞價を世界の人々から認めて貰ふることとなるのでこれら技術者の海外雇傭促進を図る目的を以て全國で技術關係大学高等專門關係の卒業生、同窓会を組織員とする社團法人海外渡航技術者全國連盟が去る三月十八日設立されました。本会もこれに加入して右連盟理事として東京支店の山本岩三郎氏をおくつてあります。序に右連盟の會長は阿部英樹志氏(イリノイ大学同窓會長)で事務所は横浜市西区戸部町六丁目二〇八番地にあります。尙本会が右連盟へ加入する迄には松村東京支店會長外東京支店員には御多用中多大の御骨折を願いました点を深謝致します。

### 會費を納入して下さい

本会の事業は會費によつて遂行するより他に方法はありません。昭和二十四年度の收入実績から見ると會費の発行は勿論日常の事務にも支障を生じ積極的活動等は到底望めないような状態であり、二十五年度の會費納入による収入予算も二四一、三〇〇円に拘らず八月三十一日現在迄の會費納入額は五一、四六四円で納入率は凡そ二割であります。現在の諸物價指數の数百倍に比し本会の會費は漸く五十倍に過ぎません。何卒御覽察の上御拂込の程切望いたします。

次に總會の決議を経たる會費の逐年増額状況は左の通りであります。之に拠つて滯納分の納入を御願ひ致します。

金四〇円也	昭和二十一年度迄の年額	金三十四円也	昭和二十二年度分
金百〇円也	昭和二十三年度分	金百〇円也	昭和二十四年度分
金二百円也	昭和二十五年年度分		

### 終身會費完納の方に御願ひ

會費完納の方には尚に御迷惑の御事と思われませんが昭和二十二年度金三十四円昭和二十三年度二十四年度の二カ年は各金百円宛御審附願ひ、昭和二十五年からは毎年金二百円納入していただくことに定款が変更になつて居りますから御了承願ひます。

### 入会金拂込みの依頼

入会金は全額基本金に繰入れ蓄積いたして居ります昭和二十五年三月末日現在金九万四千五百円になりました未納の方は此の際至急御拂込み下さい。

### 本會報の配布停止豫告

#### 會費未納者に、止むを得ぬ策

本誌の使命から云つて斯様なことを報じなければならぬことは本会の原則に反するのみならず、本誌発行担当者として更に苦痛に耐えない所であるが、本会の運営に關する去る理事會に於て論議の上決定された事であるので予告し、會費滯納の爲次号発行時に發送を停止される者の一名も少なからんことを願つて止まない。

即ち昨年の總會に於ける本年度收入支出予算金二六九、六九三円中事業費として本誌發行四回予定で一、一〇〇円が計上されたのであるが、別掲載記事「會費納入依頼」の如く未納が意外に多く收入予算に大きな狂いを生じた爲今回の発行が漸く出來た位で次号発行の予定もつかぬ始末で更に情ない次第である。別に学内理髮部経営による特別會計益も多少あるが未だ事業費に充當出來る域に到つて居らぬ由で、本誌予定継続発行の見通しが付かぬのみか、本会運営の重大支障となつて居る。本誌を予定以上などし発行して會員相互の連絡を計り意識を喚起しないから勢い會費納入成績が上らなると云われ、反面前記の如く納入成績が悪く資金がないので會費發行すら断念せねばならぬという懸橋に陥つて居る訳である。会本部でも多少の冗費を見越して納金成績向上に努力するであらうが、會員各位の格段の御協力を願つて、本誌が少くとも年四回以上會員全部に行き届つて本会即會員相互が益々輝やかしい發展を見ることを願つて止まない次第である。

兎に角次号(十一月下旬總會後予定)發行迄に著しく會費滯納している會員には涙を呑んで本誌の送付を停止致しますから滯納者は極力納入方願ひたい。

### 昇格期成同盟會解散す

大学昇格期成同盟會を母校が昨年六月単科織維大学ではないが信州大学織維学部として昇格を見たし五〇〇坪の堂々たる新本館の建設等も一應完成したので同盟會今後の行き方をきめるため、去る二月十五日市役所禮堂の間に於て總會が開催された。會長以下五〇余名の關係者開同の席上昇格運動願未諸施設拡充等の経過報告について、會計報告、決算報告、監査報告あつてこれを會員異議なく承認の後本同盟會を存続すべきや否やについて協議されたが既に其の使命を果したのでこれを解散することに一決し、さし文藝界から注目された本同盟會も茲に解散を見ることになつた。本同盟會の主流をなせる同窓諸兄が注目された係者の絶大なる御盡力御協力を深謝すると共に今後とも宜しく御願ひする次第である。尙當日の決算報告を左記致します。

#### 上田織維專門學校 收支決算報告

大学昇格期成同盟會 收支決算報告

一金幣千四百七拾九万五千零拾貳円九拾八錢也

支 出

一金幣千四百六拾九万五千貳拾參円四拾錢也

收支差引

一金幣九万七千八百九拾九円五拾八錢也

昭和二十五年二月十五日

織 高

内 訳

業者関係寄附金 一三、七三八、二二五円一〇

千曲会関係寄附金 一、〇三二、二六五・三八

利息 四一、八二二・五〇

合計 一四、七九二、三二二・九八

支 出

本館建設費 一〇、〇八四、一四二・〇八

別所厚生施設費 四〇〇、〇〇〇・〇〇

トラクタ購入費 三三〇、〇〇〇・〇〇

紡機購入費 三五〇、〇〇〇・〇〇

大空農場電気工事費其他建設費 一六九、五八二・〇〇

資金募集諸費 一、一四六、三〇三・四二

昇格運動諸費 一、四二五、〇二七・九二

記念式典費 二九五、五三三・四〇

事務所費 一七七、五〇一・二〇

雜費 三一七、一三一・三六

合計 一四、六九五、二二三・四八

收支差引 九七、〇八九・五八

残 高

別所厚生施設設備其の他に充てる

### 信州大学織維学部 後援会の発足

別記の通り同盟會は解散したが母校は大学として見た場合尙拡充すべき諸施設が多々あるので之が拡充を図ると共に一面これを完全な成長をなせしめ織維に關する最高學府としての機能を遺憾なく發揮せざるを得ざる二月十五日同盟會解散終了後地元有志により織維学部後援會が設立された。上田市長を會長とし上田市會議長、同商工会議所會頭、小縣町村會長を副會長とし役員は各界有志をもつて組織され左記の規定によるものであるがこれ亦同盟會と同様同窓諸兄の絶大なる御盡力御協力に依たねばならぬと思われるので宜しく御了承を願ひたい。

#### 信州大学織維学部後援會々則

- 第一條 本會は信州大学織維学部後援會と稱し事務所を上田市役所に置く
- 第二條 本會は信州大学織維学部を拡充發展せしめるを以て目的とする
- 第三條 本會の趣旨に賛同する者を以て會員とする
- 第四條 本會は其の目的達成のため経費の募集其他必要と認める事業を行ふ
- 第五條 本會は左の役員を置く
  - 一、會長 一名
  - 一、副會長 三名
  - 一、理事、監事、評議員、幹事、各若干名
- 第六條 會長は會務を總理し且本會を代表する
- 副會長は會長を補佐し且會長事故あるときは之を代理する
- 理事は會務を掌理する
- 監事は會計を監査する
- 評議員は會長の諮問に應じ重要なる事項を審議する
- 幹事は會長の命を受け會務に従事する
- 第七條 本會は役員會の議を経て顧問を推挙し尙支部を設置することをを得る
- 支部に關する規程は別に之を定める
- 第八條 本會の經費は寄附金其他の收入を以て之に充てる

### 学園調髪室開設

本年一月理事會の議を経て学園厚生施設の一にもとの考えから母校西南の一隅へ理髮室を設け二月から始めているが料金ば実費で市價の半値程度であるから学園から随分喜ばれての御來校の機会には御利用願ひます。

### 小松教授退官記念品贈呈資金募集

拜啓 慈々御清適恭賀奉ります。さて小松忠一郎教授は今春家庭の都合上退官され郷里に歸られた事は既に御承知の事と存じます。同教授は昭和九年母校教官に就任以來十六年の長きに亘つて母校のため或いは日本織維工業のため更に又我が千曲會發展のために全力を傾けて御盡し下され其の功績は実に甚大であります。是此の際同教授の御功績を讃えんと共に尙多年の勞に報いるため資金を募集し記念品を贈呈して聊か感謝の微意を表したいと思ひます。どうぞ左記事項御承の上御賛成御醸金下さいます様御願ひ申し上げます。 敬具

昭和二十五年九月

- 募集要項
- 一、融出金額 御隨意
  - 一、申込期限 十二月末日
  - 一、送金先 信州大学織維学部内千曲會宛 (振替口座東京四三三四一) 小松教授記念品贈呈資金なる旨御明記。
  - 一、清算報告 明春発行の本會報上で報告します。
  - 一、記念品の選定及贈呈方法 發起人に御一任願ひます。
- 発 起 人 (順序不同)
- 蒲生 俊興 野口新太郎 窪田 潤  
今吉 樂朗 磯水 茂 安倍 恒雄  
塩田 他介 倉沢 美徳 中 沢 忠  
山口定次郎 小林 尚一 佐藤 一  
飯島 貞雄 柳沢 忠次 林 真三  
萩原 清治 中島 眞清 眞山 喜吉  
合田 信一 池田正五郎

母校昇格資金醸出者

(頭書数字は分納回数)

- 金五拾万圓也 安井 義忠 社団法人千曲会
- 金貳千圓也 西 孝重 四方 藤畑
- 金壹千圓也 南沢 清 山崎 千幸
- 金八百圓也 松崎 昇平 山崎 保太
- 金五百圓也 伊藤 博夫 柴田 正見
- 森 亮平 菅原 吉隆
- 向井 玖彌 小出権五郎
- 石渡 重夫 市村 朗
- 柳沢 和典 神崎 聖徳
- 井本 博 丸山 武夫
- 2 福富 繁 2 中山 吉二
- 2 辻 義男 2 桑沢 千振
- 山本友之丞 2 岩切 作治
- 伊藤 常治 山岸 政治
- 2 岩切 作治 小松 歳雄
- 相野田文雄 2 日高 篤
- 金貳百五十圓也 瀧沢 正一
- 金貳百圓也 秋山 俊雄

信州大學纖維學部後援會

費醸出者

- 金參千圓也 橋本 武光
- 金貳千圓也 杏掛 久雄 小山甚三郎
- 金壹千五百圓也 金井 忠義
- 金壹千圓也 池田 善三 宮下 豊次
- 金五百圓也 神岡 康夫 桑木 正義
- 橋本 博 白鳥 竹和
- 堀江 尙 土屋 勉
- 井口 澄男 突田 けい
- 大崎 征内 見波 隆
- 三宅 武夫 古越 光明
- 小原 正久
- 小山 俊吾
- 金四百圓也
- 合計壹万七千四百圓也
- 累計壹万七千四百圓也

女子準會員に御願ひ

初夏の候々々々御願ひすこやかに御暮しの御事と御挨拶申し上げて居ります。さて私共の旧師森沢くわ子先生御老体の上只一人にて淋しく御暮しでございます。つきましてはいつかよき折を見て先生を御慰問申上げたいと存じて居りましたが、ついに其の機会を見出せませんでした。たまたま御伺ひ致しこの時こそ存じ上げて居る様次第でございます。

左記同窓の皆様に發起人にお立ちいただき、私共の心ばかりの贈りものを致したいと念願いたして居ります。幸い御賛同いただけましたら、一日も早く実現いたしたき心組でございます。何卒御多忙中とは存じますが、万々御ふくみ耀きの上よろしく御願ひ申上げます。御厚志は御手数ながら女子校友会あて御送り願ひます。

昭和廿五年五月 女子校友会 發起人 賛成者

- 上野 倭文 五〇〇円 高橋よし江
- 金井 ころ 五〇〇円 清水 賢
- 堀内 里 五〇〇円 上野 倭文
- 福沢 きい 三〇〇円 栗木 ころ
- 柳沢 連子 二〇〇円 竹田 すみ
- 池田 かよ 二〇〇円 金井 里
- 藤沢くに子 二〇〇円 赤崎 綾子
- 柳沢 連子 二〇〇円 柳沢 連子
- 堀内 波

森澤桑子先生慰問金醸出者

- 金壹千圓 安田 けい
- 金五百圓 丸山 はる 坂場もとゑ 金井 理
- 金参百圓 栗林ひさし 堀内 波 倉出てる子
- 金貳百圓 瀧沢 修 高橋よし江
- 上野 倭文 福沢 きい 池田 かよ

- 柳沢 連子 山崎 博 清水 賢
- 林 貞三 柄沢たつを 米沢はじめ
- 土屋 道子 村上けさみ 清水 敏江
- 松田 豊子 松下かほる 壺井 里志
- 柳沢みや子 蒲生 俊興 田中 穂子
- 金百圓 柳沢 安枝 平林 ころ
- 藤沢 くに 神津 永夫 窪田 潤
- 荻原 清治 小林 照子 南波 とり
- 白井 美明 宮原 廣子 西沢かほる
- 村尾 初枝 赤岡 綾子 大瀧照太郎
- 飯島 六 木下 とみ 飯島 安子
- 佐藤 正枝 若林きよ子 丸山 隆江
- 平林 君代 柳沢あさ子 斎藤くに子
- 田中てる子 内藤千代子
- 金五十圓 海川 久子
- 右合計金壹万貳百五十圓也
- 昭和二十五年七月十五日現在

訂正

先号(第四〇号)の会費領收欄中  
人會金 昭和二十三年度會費、昭和二十二年  
度寄附金 未納會費納入者の四項に亘る  
は全部誤りて之を次の如く訂正する。  
人會金 昭和二十四年度會費納入者  
中村 克美(化七)

會費領收

(七月二十日現在)

- 入會金免納者 柳沢 一郎(蚕三) 長谷川良一(蚕秀)
- 中村 勝(化七) 小口 弘人(化七)
- 関 和夫(化七) 海老名邦道(化七)
- 原井 國男(蚕六) 山本 浩(化七)
- 磯田 英男(化七) 福島 正一(化七)
- 龍野 勉(化七) 鈴木 力(化七)
- 平野 庄一(化七) 永田 治雄(化七)
- 平井 清(化七) 相沢 忠一(化七)
- 長野 寅男(化七) 佐々木利雄(化七)
- 近藤 伸一(化七) 山口 赫郎(化一)

今井甲子男(化四) 笠井利之(化六)

- 昭和二十五年通會費金貳百圓也
- 橋本 武光(蚕七)
- 中島 茂(蚕二)
- 氏家 忠次(化四)
- 村田 一由(化二)
- 山本 賢市(化二)
- 三瓶常四郎(化二)
- 石原滿洲夫(化二)
- 小出権五郎(化二)
- 吉田 信伍(化二)
- 会田 誠司(化二)
- 目崎 正夫(化二)
- 福田 英彦(化二)
- 柿崎 泰彦(化二)
- 石井 耕一(化二)
- 速藤 利治(化二)
- 竹内 彦保(化二)
- 阿部 文作(化二)
- 相場 高雄(化二)
- 木内 更介(化二)
- 青柳 寛(化二)
- 瀧沢 幸彦(化二)
- 山口 弘人(化二)
- 樋田 久吉(化二)
- 吉沢 彌(化二)
- 木内 保平(化二)
- 黒田誠一郎(化二)
- 依田寛之助(化二)
- 白井 要範(化二)
- 野尻 白二(化二)
- 中村 守太(化二)
- 長谷川弘平(化二)
- 大井 正夫(化二)
- 高橋 英(化二)
- 原田 正彬(化二)
- 山浦 克己(化二)
- 平沢和司男(化二)
- 日幡 映一(化二)
- 塩入 重雄(化二)
- 中村 廣(化二)
- 古川 俊之(化二)
- 谷川 梅造(化二)
- 早乙女徳藏(化二)
- 岩下 龍哉(化二)
- 山本 卯一(化二)
- 西田 久雄(化二)
- 渡辺 正(化二)
- 渡辺 嘉博(化二)
- 加藤 沼二(化二)
- 森本 彰(化二)
- 今井 喜八(化二)
- 今井 圭一(化二)
- 井本 俊一(化二)
- 渡辺 義人(化二)
- 中西 品(化二)
- 斎藤 義臣(化二)
- 飯村 喜一(化二)
- 坂口 文吾(化二)
- 井出 智(化二)
- 高橋 裕(化二)
- 久保山保雄(化二)
- 関 和夫(化二)
- 金沢 正利(化二)
- 海老名邦道(化二)
- 大塚 重藏(化二)
- 南沢 清(化二)
- 櫻井 卓三(化二)
- 彼末 武猪(化二)
- 星野 拓弘(化二)
- 神崎 碩夫(化二)
- 鈴木 玄九(化二)
- 長谷川恒三(化二)
- 満沢 修(化二)
- 今村 覚治(化二)
- 山本 辰雄(化二)
- 藤田六五生(化二)
- 吉川 啓人(化二)
- 多泉 清(化二)
- 野島 忠義(化二)





樋口 昭(化五) 松崎 博(化五)  
 井元 魏(農一)  
 昭和二十三年度金百圓也  
 八木 誠政(蚕三) 金沢 勇(蚕五)  
 市村 幹司(蚕四) 湯沢 重敏(糸九)  
 茅野清三郎(糸五) 細田 親二(糸五)  
 中島 集清(糸六) 根岸 市郎(紡三)  
 昭和二十二年金拾圓也  
 八木 誠政(蚕三) 金沢 勇(蚕五)  
 湯沢 重敏(糸九) 細田 親二(糸五)  
 根岸 市郎(紡三)

準會費納入者

昭和二十五年會費 (金四拾圓)  
 丸山 はる(旧教) 柳沢みや子(旧教)  
 大槻 まき( ) 坂内 波( )  
 丸茂まさ( ) 坂場もと( )  
 須藤 静子(教一) 若林のち子(教三)  
 佐藤 正枝(教四) 多田 満(教四)  
 柳沢 連子(教六) 原田まさし(教六)  
 米沢はじめ(教七) 小林 澄子(教六)  
 藤沢 タニ(教八) 大島 時子(教八)  
 井出 初子(教二) 合葉 富美(教四)  
 山辺 利江(教五) 飯島 照代(教五)  
 若林 民子( ) 西條ゆり子( )  
 川上 郁( ) 加藤そい子( )  
 依田 隆江(教六) 山口四五三(教六)  
 古田ミツエ(教七) 伊部ミサ子(教六)  
 昭和二十六年會費  
 米沢はじめ(教八) 宮下すみ子(教五)  
 昭和二十四年度會費 (金貳拾圓)  
 伊藤 幸江(旧教) 安田 けい(旧教)  
 柳沢 波( ) 下杉てる子( )  
 丸山 はる( ) 土屋 みす( )  
 柳沢みや子( ) 竹田 すみ( )  
 北原 かつ( ) 大槻 まき( )  
 金井 さと( ) 丸茂まさ( )  
 田中きみ子( ) 高橋よし江( )

坂場もと( ) 須藤 静子(教一)  
 花岡 藤(教三)  
 飯島志津子(教三)  
 青井 志づ(教四)  
 佐藤 正枝(教四)  
 高橋ふじ子(教五)  
 柳沢ときわ(教五)  
 原田まさし(教六)  
 小林 澄子(教六)  
 竹下美智子(教六)  
 鷹野 和子(教七)  
 木下 こう(教七)  
 米沢はじめ(教七)  
 大島 時子(教八)  
 渡辺 紀伊(教八)  
 佐藤ゆき江(教八)  
 笠井 里恵(教八)  
 北村 信子(教九)  
 清水 彌生(教九)  
 塩崎 節子(教九)  
 西沢かほる(教二)  
 山岸みつ子(教二)  
 胡桃沢文代(教二)  
 平林 こう(教三)  
 西戸なかつ子(教三)  
 西沢 利子(教四)  
 平林 君代(教四)  
 合葉 富美(教四)  
 飯島 照代(教五)  
 福田貴代子(教五)  
 関口 和子(教五)  
 若林 民子(教五)  
 西條ゆり子(教五)  
 川上 郁(教五)  
 小林 景子(教六)  
 中沢 幸代(教六)  
 依田 隆江(教六)  
 山口四五三(教六)  
 池田 幹子(教七)  
 川辺キヨ子(教七)  
 曲尾つる江(教七)  
 田中 穂子( )  
 若林のち子(教三)  
 田中 市江(教三)  
 木下登み江(教四)  
 宮下 湖(教四)  
 多田 満(教四)  
 柳沢 かつ(教五)  
 柳沢 連子(教六)  
 中村みつ子(教六)  
 清水 敏江(教六)  
 保科 優(教六)  
 片山 幸(教七)  
 井沢 葉子(教七)  
 藤沢 タニ(教八)  
 上原 一代(教八)  
 高橋 令子(教八)  
 山辺 津子(教八)  
 合葉 五月(教九)  
 春原 行子(教九)  
 水野 新子(教九)  
 池田 さち(教九)  
 井出 初子(教二)  
 松岡 基(教二)  
 村上けさみ(教二)  
 渡辺みつ子(教三)  
 三井 則子(教三)  
 青井まつ子(教四)  
 春原よし子(教四)  
 宮下すみ子(教五)  
 山辺 利江(教五)  
 高野みつ子(教五)  
 小林たか子(教五)  
 箱山 辰子(教五)  
 曲尾 英子(教五)  
 加藤そい子(教五)  
 半田たつみ(教六)  
 所 信子(教六)  
 林 ハルキ(教六)  
 古田ミツエ(教七)  
 横沢 京子(教七)  
 丸山美代子(教七)  
 滝沢ます子(教七)

三木 ヤマ(教三)  
 川辺 柴子(教三)  
 小田切今朝子(教三)  
 一之瀬くに代(教三)  
 伊部ミサ子(教六)  
 未納會費納入者  
 北原 かつ(旧教)  
 金拾七圓貳拾錢  
 金拾五圓六拾錢  
 竹田 すみ(旧教)  
 柳沢ときわ(教五)  
 花岡 湖(教三)  
 田中 穂子(旧教)  
 金拾四圓八拾錢  
 田中 市江(教三)  
 下杉てる子(旧教)  
 伊藤 幸枝(旧教)  
 安田 けい(旧教)  
 高橋よし江(教一)  
 木下登み江(教四)  
 窪下 湖(教四)  
 佐藤 正枝(教四)  
 原田まさし(教六)  
 中村みつ子(教六)  
 合葉 五月(教九)  
 飯島志津子(教三)  
 須藤 静子(教一)  
 大槻 まき(旧教)  
 柳沢みや子(旧教)  
 金拾四圓  
 田中 市江(教三)  
 中曾根マサ(教七)  
 曲尾 治子(教六)  
 小林 夏江(教六)  
 小林 達也(教六)  
 矢野 淑(教六)  
 多田 満(教四)  
 田中きみ子(旧教)  
 土屋 みす(旧教)  
 青井 志づ(教四)  
 山辺 津子(教八)  
 坂場もと(旧教)  
 飯島 照代(教五)  
 丸山 はる(旧教)  
 片山 幸(教七)  
 藤沢 タニ(教八)  
 笠井 里恵(教八)  
 藤沢 節子(教九)  
 西條ゆり子(教五)  
 村上けさみ(教二)  
 曲尾 英子(教六)  
 林 ハルキ(教六)  
 池田 幹子(教七)  
 川辺キヨ子(教七)  
 横沢 京子(教七)  
 丸山美代子(教七)  
 中曾根マサ(教七)

會員計報

一、職死者 今泉進、佐野忠二郎、中村一喜  
 二、病死者 山内龍一、星野莊次、青木深、府川作平、高尾茂次、井口澄男、柳田親規、鈴木脩介、高沢二郎、梅崎正道、小林繁、小林茂樹  
 右は金報第四十号へ報告以後の逝去者で洵に痛惜の至りに堪えませぬ謹んで御悔みを申し上げ併せて御冥福を祈ります。  
 各故人に対する弔慰金は通信欄へ御明記の上振替口座東京第四三三三番へ拂込下さるか又は爲替にて御送金額をば取纏めて夫々御遺族に贈呈いたします。

青木君の死を告ぐ

農林省開拓局勤務青木深君(蚕二回卒)は昨秋以來東京に於て病氣静養中でありましたが薬石効無く二月一日遂に死去され四月二日上田市北大手の自宅に於て告別式が行わ

小林 景子(教三)  
 金五圓八拾錢  
 山辺 利江(教五)  
 金五圓  
 金井 さと(旧教)  
 竹下美智子(教六)  
 小林 澄子(教六)  
 上原 一代(教八)  
 村上けさみ(教二)  
 曲尾 英子(教六)  
 古田ミツエ(教七)  
 川辺キヨ子(教七)  
 丸山美代子(教七)  
 三木 ヤマ(教七)  
 飯島 照代(教五)  
 丸山 はる(旧教)  
 片山 幸(教七)  
 藤沢 タニ(教八)  
 笠井 里恵(教八)  
 藤沢 節子(教九)  
 西條ゆり子(教五)  
 村上けさみ(教二)  
 曲尾 英子(教六)  
 林 ハルキ(教六)  
 池田 幹子(教七)  
 川辺キヨ子(教七)  
 横沢 京子(教七)  
 丸山美代子(教七)  
 中曾根マサ(教七)













